

## POINT

- 構図** 与えられたモチーフの存在感や形を考慮し、画面全体にどう描いたらよいかイメージして配置します。  
→画面にバランスよくおさめるにはどのように構成したらよいか、長方形の枠などを通して片目で確認するなどの練習をしておきましょう。
- 形** 円柱や直方体などの幾何形体は、特に形状の正確さが求められます。  
→幾何形体のモチーフを、正確に描く練習をしておきましょう。
- 素材感** 硬いもの、柔らかいもの、光ったもの、透明なものなど、異なる質感の描き分けが必要です。  
→材質感の対照的なモチーフを、構成し描く練習をしておきましょう。
- 光と陰影** どの方向から光がきているのか、モチーフの陰影を注意深く観察して描きます。  
→モチーフ自体の明るい部分と暗い部分、モチーフによってできたテーブル上の影など、微妙な陰影を描くことで光の方向性と立体感、遠近感が表現できます。陰影の観察と表現のテクニックを、練習しておきましょう。

一般選抜Ⅰ期 <科目選択型> / 留学生選抜Ⅲ期 <科目選択型> → 180分 / 190点満点 ※2027年度入試は配点が異なります。



鉛筆デッサン

### 解答例

#### 【モチーフ】

・ポンプボトル    ・ウッドボックス    ・携帯用スリッパ

#### 【講評】

この課題の出題意図は、直径が異なる円筒が重なるポンプボトルの形状と、その透明ボトル部分の内部をいかに描くか、直方体のウッドボックスの各パーツ間の寸法を保ちながら縦横や奥行きをつじつまを合わせて形状を描き取れるか、携帯用スリッパの曖昧ながらも履き物らしいラウンド形状をスムーズに描けるか、そしてそれぞれの材質感の違いと、陰影による明度の差および色合いの違いを鉛筆の濃淡で描き分けできるかを問うものです。

解答例のデッサンは、特に難易度の高いポンプボトルの描写に注力し、透明ながら濃い色のボトルの底面とノズルの描写による透明感の表現・各パーツの寸法とつながり・ラベル部分と透明部分の反射の違いなどを丹念に描いています。ウッドボックスは各パーツの位置関係に破綻なく、その隙間から見える携帯用スリッパもしっかりとラインがつながっており、素材の描き分けにも丁寧さがうかがえます。モチーフのレイアウトを、より奥行きが感じられるように工夫を施せば、更に良いデッサンになるでしょう。

